

## 平成22年6月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成21年11月10日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 エーワン精密

コード番号 6156 URL <http://www.a-one-seimitsu.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也

TEL 042-363-1039

四半期報告書提出予定日 平成21年11月13日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年6月期第1四半期の業績(平成21年7月1日～平成21年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年6月期第1四半期	309	△40.7	47	△74.7	49	△74.6	29	△74.2
21年6月期第1四半期	522	—	189	—	195	—	115	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年6月期第1四半期	1,980.75	—
21年6月期第1四半期	7,684.99	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年6月期第1四半期	6,754	6,366	94.3	424,453.09
21年6月期	6,761	6,432	95.1	428,817.93

(参考) 自己資本 22年6月期第1四半期 6,366百万円 21年6月期 6,432百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年6月期	—	—	—	6,000.00	6,000.00
22年6月期	—	—	—	—	—
22年6月期 (予想)	—	—	—	6,000.00	6,000.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成22年6月期の業績予想(平成21年7月1日～平成22年6月30日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 累計期間	839	△11.6	202	△34.0	219	△32.0	120	—	8,022.53
通期	1,700	14.6	410	26.5	437	26.4	238	—	15,909.84

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

〔注〕詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

〔注〕詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年6月期第1四半期 15,000株 21年6月期 15,000株

② 期末自己株式数 22年6月期第1四半期 一株 21年6月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 22年6月期第1四半期 15,000株 21年6月期第1四半期 15,000株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料発表日において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

・ 定性的情報・財務諸表等

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、昨年後半から今年前半に掛けて急速に広がった金融不安が徐々に落ち着きを取り戻してまいりました。今年半ば頃から在庫調整が進展し、製造業における生産活動も緩やかに回復してきております。日本国内の消費活動にはまだ力強さは感じられないものの、中には販売好調な製品も出てきており、海外に目を転じるとアジアを中心に高い経済成長率を維持し、金融不安前の消費水準にいち早く戻り世界的な消費市場を牽引する地域が出てきております。

このような状況を反映し、当社の第1四半期も月を追うごとに緩やかながら受注は増加してまいりました。ただし、当面は世界的な需要動向を見ながらの慎重な回復にとどまるものと思われまます。当社は主力のコレットチャック部門や切削工具部門で品質維持・向上、短納期対応に必要な設備拡充・補強を行い、また自動旋盤用カム部門を含めた全ての事業部門で、可能な限り即納できる体制を整備してまいりました。

この結果、当第1四半期の売上高は309,608千円（前年同期比40.7%減）、営業利益は47,919千円（前年同期比74.7%減）、経常利益は49,724千円（前年同期比74.6%減）、四半期純利益は29,711千円（前年同期比74.2%減）となりました。

部門別の売上は、以下のとおりであります。

事業部門別	期別 第19期 第1四半期 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)		第20期 第1四半期 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)		第19期 (自平成20年7月1日 至平成21年6月30日)	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
コレットチャック部門	374	(0.2)	223	(△40.3)	1,041	(△33.1)
自動旋盤用カム部門	21	(△6.0)	16	(△25.2)	57	(△43.8)
切削工具部門	126	(△2.8)	70	(△44.4)	384	(△26.9)
合計	522	(△1.0)	309	(△40.7)	1,483	(△32.1)

2. 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は、3,446,659千円（前事業年度末は3,592,946千円）となり146,286千円の減少となりました。これは受取手形及び売掛金が31,985千円、現金及び預金が21,630千円増加しましたが、その他が前期末に計上した未収還付法人税等が大幅に減少したこと等により123,885千円、有価証券が66,762千円減少したこと等によるものであります。また、当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は、3,308,232千円（前事業年度末は3,168,944千円）となり139,288千円の増加となりました。これは有形固定資産のその他が新工場完成による建設仮勘定の減少などにより322,487千円、機械装置及び運搬具が32,107千円減少しましたが、新工場完成により建物及び構築物が434,166千円、投資有価証券が52,515千円増加したこと等によるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における総資産は6,754,892千円（前事業年度末は6,761,890千円）となりました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は、105,090千円(前事業年度末は54,220千円)となり50,870千円の増加となりました。これは役員賞与引当金が5,730千円減少しましたが、未払金が43,495千円、未払法人税等が10,101千円増加したこと等によるものであります。また、当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は283,005千円(前事業年度末は275,401千円)となり7,604千円の増加となりました。これは、退職給付引当金が5,763千円、役員退職慰労引当金が1,840千円増加したことによるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における負債合計は388,096千円(前事業年度末は329,621千円)となりました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、6,366,796千円(前事業年度末は6,432,268千円)となり65,472千円の減少となりました。これは利益剰余金が60,288千円、その他有価証券評価差額金が5,183千円減少したことによるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度末と比べ171,307千円増加し、1,144,297千円となりました。なお、当第1四半期累計期間におけるキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローの増加は230,711千円(前年同四半期は163,387千円増加)となりました。これは売上債権の増減額が31,985千円ありましたが、税引前四半期純利益が49,724千円、減価償却費が53,190千円、法人税等の還付額が107,485千円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローの減少は707千円(前年同四半期は203,293千円減少)となりました。これは定期預金の増減額が149,677千円ありましたが、有形固定資産の取得による支出が149,800千円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローの減少は58,697千円(前年同四半期は101,409千円減少)少となりました。これは全額、配当金の支払額によるものであります。

3. 業績予想に関する定性的情報

第2四半期累計期間及び通期の見通しにつきましては、平成21年8月12日発表の業績予想どおりとなる見込であります。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 簡便な会計処理

① 棚卸資産の評価方法

当第1四半期会計期間末における棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前事業年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

② 固定資産の減価償却の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

2. 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期財務諸表】  
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成21年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,455,812	2,434,182
受取手形及び売掛金	254,710	222,724
有価証券	500,000	566,762
製品	4,124	4,404
原材料	39,581	43,980
仕掛品	170,975	169,952
繰延税金資産	8,859	12,303
その他	17,697	141,582
貸倒引当金	△5,102	△2,947
流動資産合計	3,446,659	3,592,946
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	848,264	414,098
機械装置及び運搬具(純額)	603,159	635,266
土地	319,337	319,337
その他(純額)	17,139	339,626
有形固定資産合計	1,787,901	1,708,328
無形固定資産	3,159	3,422
投資その他の資産		
投資有価証券	1,358,575	1,306,060
繰延税金資産	153,554	147,710
その他	9,591	8,013
貸倒引当金	△4,548	△4,591
投資その他の資産合計	1,517,172	1,457,193
固定資産合計	3,308,232	3,168,944
資産合計	6,754,892	6,761,890
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	7,883	5,491
未払金	66,858	23,363
未払法人税等	10,101	—
役員賞与引当金	270	6,000
その他	19,976	19,365
流動負債合計	105,090	54,220
固定負債		
退職給付引当金	259,785	254,021
役員退職慰労引当金	23,220	21,380
固定負債合計	283,005	275,401

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成21年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年6月30日)
負債合計	388,096	329,621
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	337,400
利益剰余金	5,812,032	5,872,320
株主資本合計	6,441,932	6,502,220
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△75,135	△69,952
評価・換算差額等合計	△75,135	△69,952
純資産合計	6,366,796	6,432,268
負債純資産合計	6,754,892	6,761,890

(2)【四半期損益計算書】  
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
売上高	522,039	309,608
売上原価	255,582	200,161
売上総利益	266,456	109,447
販売費及び一般管理費	76,897	61,527
営業利益	189,559	47,919
営業外収益		
受取利息	2,645	1,298
有価証券利息	1,824	1,089
受取配当金	1,050	1,861
その他	615	3,207
営業外収益合計	6,134	7,456
営業外費用		
有価証券償還損	—	5,650
営業外費用合計	—	5,650
経常利益	195,693	49,724
特別損失		
有形固定資産除却損	129	—
特別損失合計	129	—
税引前四半期純利益	195,564	49,724
法人税、住民税及び事業税	83,000	19,000
法人税等調整額	△2,710	1,013
法人税等合計	80,290	20,013
四半期純利益	115,274	29,711

(3) 【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	195,564	49,724
減価償却費	47,286	53,190
長期前払費用償却額	50	15
有形固定資産除却損	129	—
有価証券償還損益(△は益)	—	5,650
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,100	2,113
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△11,285	△5,730
退職給付引当金の増減額(△は減少)	3,154	5,763
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	1,840	1,840
受取利息及び受取配当金	△5,519	△4,248
売上債権の増減額(△は増加)	29,824	△31,985
たな卸資産の増減額(△は増加)	△11,045	3,655
仕入債務の増減額(△は減少)	1,044	2,391
未払金の増減額(△は減少)	19,394	7,042
その他	△1,131	29,796
小計	270,408	119,218
利息及び配当金の受取額	2,799	4,007
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△109,821	107,485
営業活動によるキャッシュ・フロー	163,387	230,711
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△100,321	149,677
有価証券の取得による支出	△498,931	—
有価証券の償還による収入	500,000	—
有形固定資産の取得による支出	△104,100	△149,800
貸付けによる支出	—	△1,080
貸付金の回収による収入	60	495
投資活動によるキャッシュ・フロー	△203,293	△707
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△101,409	△58,697
財務活動によるキャッシュ・フロー	△101,409	△58,697
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△141,315	171,307
現金及び現金同等物の期首残高	1,237,303	972,989
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,095,988	1,144,297

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。